

地域に生きる心理学、地域で活かす心理学（社会臨床心理学科）

「心理学」と聞けば、面接室の中で行う「カウンセリング」を連想される方が多いと思いますが、心理学はカウンセラーを養成するだけの学問ではありません。私たちの学科名称でもある「社会臨床心理学」は、心を個人の内面の世界として理解するよりも、個人と社会のつながりとしてとらえ、そのつながりを調整することによって心理援助を行う学問です。

そこで、私たちの学科は、地域社会の一員として地域と連携したさまざまな活動を行っています。ここで紹介する写真は、東区戸坂地区に事業所をもつ4つの社会福祉法人と一緒に運営している「らくらく広場」という子ども食堂の風景です。もう4年目になる活動ですが、私たちは「戸坂地域づくり協議会」を組織し、その下に「若者会議」という学生と若手職員からなる実行委員会を置いて、若者同士がアイデアを出し合い、地域で暮らす子どもやお年寄りと一緒に交流できる場として食堂を運営しています。

大学は、高校までとは違って、知識を丸覚えするのではなく、何らかの課題を解決するために、自分で考え行動する力を身につける場所です。現代の地域社会はさまざまな課題を抱えていますので、一歩外に踏み出すとそこにはたくさんの教材があります。それを解決するための策を練って、実行して、評価して、改善して、さらに効果的なものにしていく。大学と地域社会の接続を通して、私たちは教育と研究、社会貢献が三位一体となった活動を続けていきたいと思っています。



安佐南区民文化祭りJA農業祭にて料理を販売（管理栄養学科）

安佐南区が毎年11月第一日曜日に開催している、安佐南区民文化祭り・安佐南区農業祭に、令和元年も健康栄養学部管理栄養学科の寺岡ゼミの学生が参加しました。

学生は、地場産物の活用をテーマの一つとして地域連携活動を行っており、地元野菜である広島菜、その加工品の広島菜漬を使用した料理を考案し販売しました。学生は、何度も試作・検討を行い、料理10品を考案しました。これらの料理をJA広島市の川内、緑井、八木の支店長様や農事研究会の皆様方にプレゼンテーションした結果、「広島菜漬と豆腐のふんわりつくね」と「もちりり広島菜漬ドーナツ」の2品を販売することに決まりました。

当日、学生は早朝からの調理となりましたが、2品とも、地域の皆様、お子様に大好評ですぐに完売しました。また、考案した広島菜漬を使用した料理を掲載した冊子「広島菜漬レシピ集」もお配りし大変喜んで頂きました。「おいしい」「おいしかったからまた買いました」「広島菜漬がはいつとるんじゃね」との皆様の声に、しっかりと地元野菜のPRができたと感じた1日となりました。

現在、学生は、廣島魁 山豊様と広島菜漬を使用したメニューや製品開発に取り組み、地場産物・地元野菜の活用、広島菜漬の利用法の拡大、調理素材としての漬物の活用法の普及に取り組んでいます。令和2年度には広島菜漬を活用したメニューをご紹介する公開講座も企画しております。

今後は、生産者の方との交流を持ち、地域とのつながりを醸成し、地産地消の大切さを認識する管理栄養士をめざします。



地域子ども達へ！「あそびのポケット」へようこそ！（幼児教育科）

幼児教育科では、学生達が日々の学びをふまえて地域とつながる主体的な活動に取り組んでいます。今回は、幼児教育科の学生と教員で構成される

幼児教育研究会の企画の一つ、比治山祭における「あそびのポケット」という、地域子ども達へ向けたオリジナルの遊び場について紹介します。

地域に向けた活動を念頭にしていたこともあり、例年よりも空間づくりにこだわりました。アリーナ一体の広い空間を利用し、全体的に空間としてのテーマを設定し、それに合わせた天井の装飾、フロアにはそれぞれの遊び場へと誘うバス停を設置するなど学生によるアイデア満載の空間になりました。また、幼児から小学生の子ども達の発達にそったものになるよう、一人一人が試行錯誤して、魚釣り、立体迷路などの8種類の遊び場を設置しました。特に、幼児教育研究会委員の学生達は、全体的なマネジメントから当日の進行だけではなく、各遊び場を回ってサインを集めることができるような地図を用意し、普段の授業や実習での学びを最大限に生かして力を発揮してくれました。その頑張りもあって、例年以上に多くの子ども達や親子連れが遊びにきてくれました。

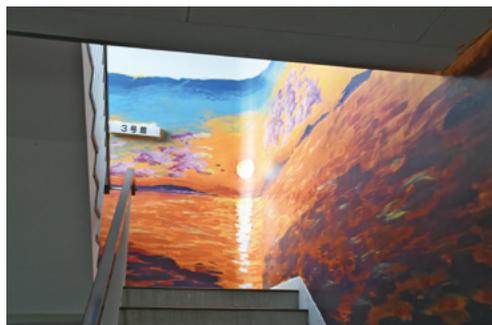
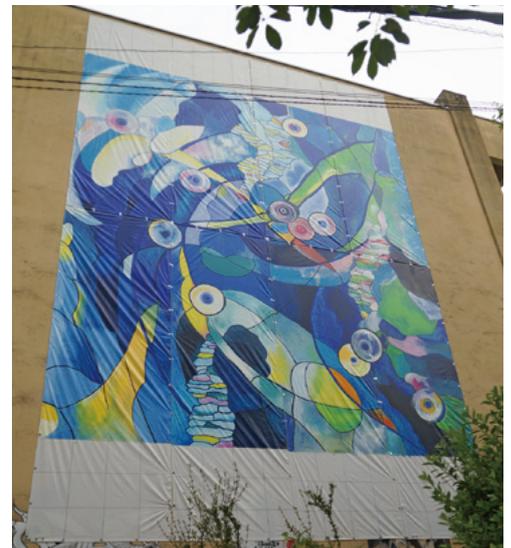
常に他者や地域を意識しながら大学での学びを実践することを大切に、この2年生の主体的な活動は、次の2年生がしっかりと来年も引き継いでくれることと思います。2020年も比治山祭での「あそびのポケット」を是非とも楽しみにしててください。たくさんの方々のご来場をお待ちしております。



さよなら3号館

美術科が設置されて以来、50年以上に渡って拠点としてきた3号館が、耐震性の問題から止むを得ず建て替えられることとなりました。1期生からの思い出深い学び舎ですが建築の安全には代えられません。そこで、せめて最後の思い出として、2019年5月11日（土）に「新入生オリエンテーション～壁画制作～」を実施しました。「どうせ解体される建築ならそんな時にしかできないこと＝落書きをやるんじゃないか、めったにないチャンスだし、第一、それこそ美術科らしい」と堀尾教授の発案です。美術科の授業ではバスキアやバンクシーなども紹介されており、美術表現の様々なあり方を学んでいます、ならば今こそ実践の時。また1年生にとっては、作業しながら互いに話し助け合うことで交流ができ、お互いに親しむきっかけにもなるでしょう。さらに美術の基礎教育としても、このような大きな壁に直接に描くことは貴重な経験であり、今後の学生の制作に何かしらインスピレーションを与えてくれるはずです。しかし作業はたった1日の5時間だけです。6つのチームに別れ、それぞれ基調色だけは決めましたが、描く題材は自由としました。果たして、こんな限られた時間で満足のいく壁画を描くことができるだろうか、せいぜい下塗りをする程度で終わってしまうのではないのか、という心配は全くの杞憂でした。学生のパワーは圧倒的です。教員側がびっくりする程見事な壁画を作り上げてしまいました。

また7月27日（土）には、美術研究会主催の「さよならC棟＝3号館とさよならする会」が実施され、多数の卒業生が集まり懐かしい話に花を咲かせ、名残を惜しんでいました。このイベントに合わせ3号館屋上と西側外壁にも壁画が描かれ、ドローン撮影も行いました。当日は卒業生が連れてきた子供たちも可愛い壁画を描いていました。



安芸太田町シニアクラブの皆さんが来学されました！

令和元年11月8日（金）に、安芸太田町シニアクラブのみなさま約50名が来学され、授業や、学生との交流を体験されました。午前は言語文化学科教員による「安芸北部の鉄文化」、「近代の歌謡」の講義を受講され、学食でのランチを挟んで、午後からは学生との交流会です。

交流会ではまず、昨年の「日本語表現研究」において作成した「広島ことばカルタ」をクラブの皆さんと学生で楽しみました。（「日本語表現研究」は、日本語文化コースでの学びの成果をどのような形で地域に還元することができるのかを考え、実践していく授業です。2018年度は、広島弁を知らない若年者・外国人の介護従事者が抱えるコミュニケーションの問題、いわゆる「方言の壁」の問題を解消するようなコンテンツ作成をということで、IGL医療専門学校・医療法人社団恵正会との産学連携し、介護従事者が楽しみながら広島弁を学べる教材「広島弁講座DVD」や「広島ことばカルタ」を作りました。）

カルタでお互いの緊張がほぐれたあとは、学生たちがグループごとに企画した交流プログラムに基づいてレクリエーションやコミュニケーションの時間です。さきほどのカルタにあった広島の方言についてクラブの皆さんからいろいろ教わったグループ、風船を使ったゲームでアクティブに楽しんだグループ、学生が心を込めて入れたお茶とお菓子でおもてなしをしたグループ、学生たちが普段使う若者ことばについてのクイズ大会を行ったグループなど、それぞれが趣向を凝らした企画で交流会を盛り上げました。帰り際には、楽しかったとたくさんの方にお声を掛けていただき、とても充実した時間となりました。

（現代文化学部言語文化学科 九内悠水子）



公開講座「秋の月と星めぐり」

10月4日（金）の夕刻、公開講座「秋の月と星めぐり」を実施しました。当日は晴天に恵まれ、親子連れなど約50名の参加がありました。

3部で構成された講座の最初は、林武広教授による画像を使った、宇宙や星の解説を聞きました。

次にお月見にちなんで、管理栄養学科山崎初枝教授とゼミの学生たちによる、きな粉とみたらしのお団子づくりを体験しました。最初にお月見とお団子のかかわりについて学生が説明した後、全員が4テーブルに分かれて調理・試食を行いました。初対面の参加者の方々と一緒にお団子を丸めながら話はずみ、和気あいあいと作りました。出来上がったお団子は、ススキや彼岸花を見ながらいただきました。

現在、学生は「災害時における食からの支援」について学んでおり、備蓄食品やバック・ッキング等について学外での普及啓発活動を行っています。今回の教室も、調理室外での調理のため、ポウルの代わりにビニール袋、火力源にカセットコンロを利用しました。参加された皆様からは、「ビニール袋を使って調理をしたのは初めてだが、後始末も簡単で今後、利用したい。」などと好評でした。

そして、真っ暗になった頃、屋上に移動し、望遠鏡4台を使って、月、土星、木星を観望しました。月のクレーターや環がある土星、木星の縞模様や4つの惑星がはっきり見え、参加者から歓声が上がっていました。

令和2年度も夜空を観望する講座を企画しています。ぜひご参加ください。

（現代文化学部子ども発達教育学科 林 武広・健康栄養学部管理栄養学科 山崎初枝）



地域と連携して、小学校低学年の英語教育を研究しています。

江田島市と連携し、認定こども園や保育園と小学校3年生からの外国語教育を繋げるための、小学校低学年における英語教育カリキュラムを研究しています。

グローバル化の進展に伴い、小学校就学前の幼児に対する英語教育を取り入れる幼稚園、認定こども園や保育園が増えています。また、小学校ではこれまで5年生から行われていた外国語教育が、昨年度より3年生から行われています。

現在、江田島市の認定こども園の年中と年長では、外国人の先生と一っしょに、英語の歌を歌ったり、歌に合わせて身体を動かしたり、英語の紙芝居を聞いたりする英語教育の

活動を行っています。また、小学校3年生の外国語教育では、英語であいさつをしたり、身の回りのことについて尋ねたり、答えたりするコミュニケーションの活動が中心のカリキュラムとなっています。

幼児と小学校3年生の外国語教育を繋ぐため、認定こども園や保育園で行っている活動に加え、絵本で繰り返される簡単な英語のフレーズを先生と一っしょに口ずさむ活動を取り入れた、小学校1年生のためのカリキュラムを作成しました。今後は、小学校1年生のカリキュラムを踏まえ、英語でのコミュニケーションを段階的に増やしていく小学校2年生のためのカリキュラムを作成し、小学校3年生の外国語教育につながる効果的なカリキュラムを提案したいと考えています。

（現代文化学部言語文化学科 研究代表 大里弘美）



企画・創作コンテスト 高校生じぶん“オ”発見プロジェクト（令和元年度）

13回目となるこのコンテストでは、高校生の皆さんを対象に「身の回りから発信しよう！」というテーマで、「アート」「おやつレシピ」「雑貨」「わが校自慢」の4部門の作品を募集しました。令和元年度は応募件数250点を超える中から入賞者が決まりました。金賞受賞は「おやつレシピ」部門1点、「雑貨」部門1点の計2点、銀賞は「アート」部門、「おやつレシピ」部門でそれぞれ2点の計4点、銅賞は15点、学校賞は5点でした。たくさんのご応募をありがとうございました。



▲金賞 おやつレシピ部門「さつまいもの緑色ケーキ」



▲金賞 雑貨部門「八馬八色キーホルダー」

比治山学園創立80周年記念式典等が挙行されました

学校法人比治山学園は、令和元年11月4日（月）、『かわらない心。かわりゆく時代の先へ。』をスローガンに、学園創立80周年記念式典・記念講演・祝賀会を盛大に開催しました。

記念式典では、式辞で、岡本茂信理事長は、戦争による混乱など、あまたの困難を教職員、保護者、生徒が一致団結し、乗り越えてきた学園の歴史を振り返り、今後も、建学の精神を大切にしながら、いつの時代も常に輝く人材を送りだし続けるというスローガンに込めた決意を熱く語られました。

その後、石井眞治学長、好村孝則校長の挨拶に続き、来賓祝辞では、井上睦子文部科学省私学助成課長、小出秀文日本私立大学協会常務理事、田邊昌彦広島県副知事のお三方から、温かいご祝辞を頂戴しました。

記念講演では、広島市出身で元陸上競技選手の為末大さんが「自分を育てる」と題してご自身の競技経験等を踏まえた、教育や人材の育成に通じる大変興味深いお話をされました。

続く祝賀会では、岡本理事長の挨拶の後、岸田文雄衆議院議員、松井一實広島市長、山中幸平広島県私立中学高等学校協会副会長からお祝いのお言葉を頂戴しました。

最後に、延本真栄子比治山女子中高同窓会会長の未来に続く学園発展への期待の言葉で締めくくられました。

このたびの式典等には、同窓生はじめ、地域の皆様や学生の就職先企業の方も多く参加され、地域における本学の存在感の高まりを実感できました。学園関係者一同、新しい令和の時代に、地域や世界に貢献できる人材の育成に全身全霊で取り組む決意を新たにす機会となりました。



▲記念式典・理事長式辞



▲記念講演・為末大氏



▲祝賀会風景



▲アトラクション・天水太鼓部

あとがき

「比治山大学生涯学習・地域連携センター便り」（第5号）をお届けいたします。令和元年、比治山学園は地域に支えられて、80周年を迎えました。これからも地域に根ざす教育研究を推進し、その成果を地域に発信し、貢献していくことを目指します。今後とも、本学の事業にご協力くださいますようお願いいたします。

[比治山大学ホームページ](#) > [大学案内](#) > [地域連携](#) > [生涯学習・地域連携センター](#) に掲載しております。こちらもご活用ください。

【教員研究ガイド】本学教員の研究内容を公開しております。

【公開講座】2020年度の公開講座案内を掲載しています。



比治山大学 比治山大学短期大学部

生涯学習・地域連携センター

〒732-8509 広島市東区牛田新町4丁目1-1

TEL：082-229-0121

FAX：082-229-5100

<https://www.hijiyama-u.ac.jp>

E-mail：shougai@hijiyama-u.ac.jp